

平成27年度

看護力再開発講習会 ―看護技術演習コース― 報告

本事業は、再就業を希望する看護職者の方々に、最新の看護知識の提供・看護技術修得への支援、就職への情報提供や支援を行うことを目的として、毎年度、本学で開催しております。今年度は、9月7～11日の日程で開催しました。看護技術演習のプログラムは、受講生の方々の看護技術への自信を取り戻していただくことを重視した内容で構成し、午前中は主に講義・演習、午後は自主学習時間を設け、必要な看護技術を繰り返し修得できる環境を整え実施しました。

看護技術演習プログラムと参加者数

日時	研修内容	講師	参加者数
9/7 (月)	看護技術力を高めるとは	宮崎県立看護大学 教授 栗原保子	参加者 27名
	検査と看護（採血法） 診断・治療過程における検査の意義と看護の役割を再認識する。本単元では、「採血」技術を修得する。 午後；自主学習時間	宮崎県立看護大学 教員 坂井謙次	
9/8 (火)	与薬と看護（注射法） 治療に伴う看護技術のうち、身体に直接影響を及ぼす与薬について理解を深める。本単元では、「注射」技術を修得する。 午後；自主学習時間	宮崎県立看護大学 教員 中角吉伸	参加者 26名
9/9 (水) 午前	感染予防策の実際（感染防御） 感染の知識を深め、正しい感染予防の実際を学ぶ。本単元では「手洗い」等、感染予防に必要な基本技術を修得する。	宮崎市郡医師会病院 感染管理認定看護師 篠原真理子	参加者 23名
午後	誤嚥性肺炎を予防するための口腔ケアと吸引 「口腔ケア」が発熱や肺炎の予防といった全身の健康維持にも関連することを理解し、口腔ケアの方法、吸引の手技について修得する。	宮崎県立看護大学 教員 原村幸代	参加者 21名
9/10 (木)	急変時の看護 （急変時のフィジカルアセスメント・救急蘇生） 身体機能面から見た急変時フィジカルアセスメントのとらえ方としてエビデンスに基づいた呼吸器・循環器の理解と対処の仕方を学び、最新のガイドラインに基づく心肺蘇生の基本を修得する。 午後；自主学習時間	宮崎市郡医師会病院 救急看護認定看護師 鶴野和代	参加者 30名
9/11 (金)	移動の動作の援助 看護の対象者、看護者双方の安全、安楽を守るために必要なボディメカニクスを確認し、移動動作の援助を中心とした基本技術を修得する。 午後；自主学習時間	宮崎県立看護大学 教員 坂井謙次	参加者 23名

演習・実習支援者として、看護大教員、看護協会スタッフなどが支援に入りました。

(次ページにつづく)

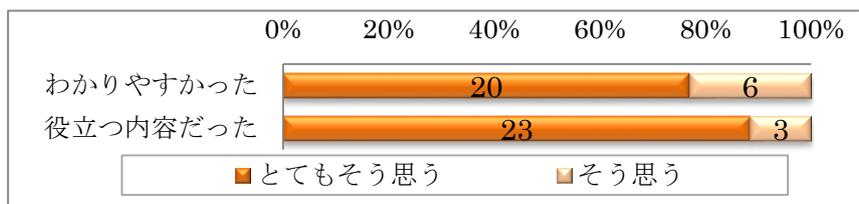
参加者の方々から、このプログラムを受講した感想として、以下の声が届きました。

参加者の声

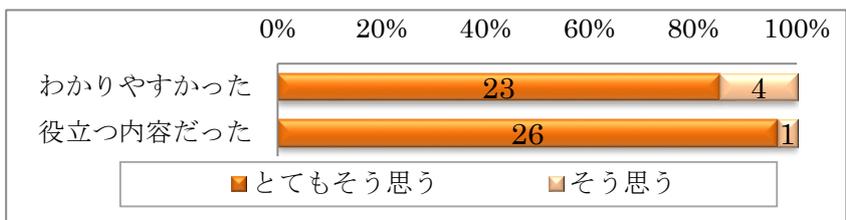
- ・ blank があって復帰できるか心配でした。講義や演習で臨床の場のことを思い出すことができました。すべてのことに根拠を常に考えながら看護をしなければならないと再確認させられた。再就職に向けて無理せずがんばっていきたい。
- ・ 講師がどんな質問にも丁寧にわかりやすく教えてもらった。聞きやすい雰囲気だった
- ・ 看護技術はただ提供するだけでなく患者さんの立場に立って技術を提供することの大切さを再認識できた。看護はマニュアルどおりではなく、患者さんの思いに寄り添うことがいかに救いとなるか、看護とは疾患だけでなく一人ひとりの背景、全体を見る事であると実感できた。採血にしても採血の行為だけではなく、解剖的に根拠を考えたり技術の根拠がわかると採血行為の怖さと手順の意義がよくわかり勉強になった。



<採血>

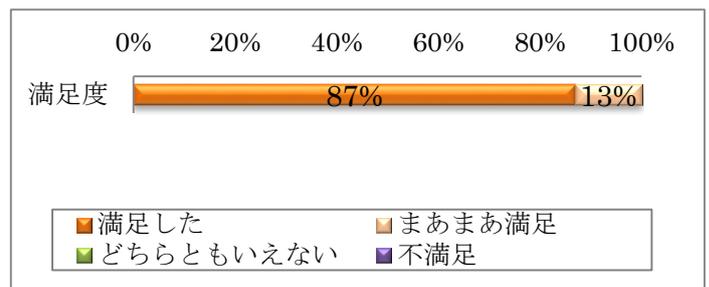
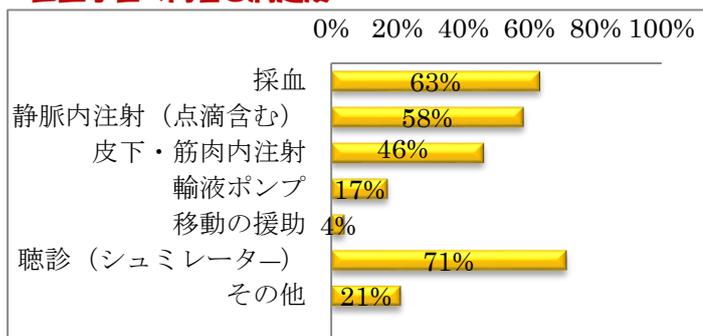


<救急蘇生>



プログラムに参加された方々の8割が、全ての項目において、「今後に役立つ内容だった」と答えています。また、演習を行う前に比べ、演習後は、知識・技術に自信を持つ方々が増えています。

<自主学習の内容と満足度>



自主学習においても、スタッフが支援に入りながら、様々な技術の修得をめざして、演習が行われました。

(文責：毛利聖子)